



学校だより



小川小学校 ○ 考える子 ○ 優しい子 ○ 元気な子

令和2年11月20日 No.29

《二次障害の防止にむけた児童の正しい理解と適切な支援のために》

ここ10数年の間に、発達障害（学習障害を含む）という言葉が広く使われるようになってきました。一概には言えませんが、下記のような特色があるとされています。

- ADHD（注意欠陥多動性障害）
 - ・じっとしていない、しゃべりすぎる
 - ・いきなり行動する、待つことが苦手
 - ・注意力が足りない、計画を最後まで実行するのが苦手
- アスペルガー症候群
 - ・人と上手につきあうことが苦手
 - ・コミュニケーションがとりづらい
 - ・創造力が乏しく、こだわりがある
- 学習障害
 - ・全般的な知的発達に遅れがないものの、「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算・推論する」能力のうちいずれかまたは複数のものの習得・使用に著しい困難を示す発達障害のこと。（文部科学省の定義）
 - ・練習しても漢字が覚えられない、計算が極端に遅い、などの場合があります

大切なこととして、発達障害は、1か0かのようにはっきり区別できるものではありません。すべての人に何らかの傾向があるということです。そして、さらに大切なことは、周りの人が発達障害への理解を深め、適切に対応することで、その人は社会に適応し、活躍していくことができるということです。実際に、映画監督のスピルバーグさん、マイクロソフト創業者のビル・ゲイツさん、俳優のトム・クルーズさんなど、発達障害でありながら世界的に大活躍している人はたくさんいます。

今回の学校だよりでお伝えしたかったこと、それは「二次障害の防止」です。

上記のような傾向性のある子供に対し、周囲の友達や大人が「自分勝手、わがまま、悪い子」と一方的に決めつけてしまったり、本人も「みんなが簡単にできることなのに自分はできない」ことから、自分はだめな人間だと思ったりします。このことから、だんだん自信をなくし、自己肯定感が下がり、周囲から孤立しがちになり、さらに周囲とトラブルを起こすという悪循環が起きてしまうのが、二次障害です。

二次障害を起こさないためには、周りの人が「Aさんは、苦手なこともあるけど、○○は得意」「Bさんには、言葉だけでなくて図示して示すと良く伝わる」など発達障害の特徴を理解し、適切に対応することが重要です。発達障害の人も学校生活を送りやすくなりますし、周囲とのトラブルも減少します。**また、なるべく早い時期から適切な支援を行うことで障害は緩和され、二次障害も防げるとされています。**

みんなが気持ち良く生活し、一人一人が力を発揮できるよう、みんなで取り組んでいくことが大切です。学校でも研修の機会を設け、より適切な支援、指導を目指して努力しています。

保護者の皆様、お子様のことで何か気になることがございましたら、担任や学校へお知らせください。

《1・2年生が防犯教室で学習しました》

11月6日（金）小川警察署から講師の方を迎えて防犯教室が行われました。1・2年生の児童に防犯意識を高めてもらおうと、埼玉県警が作成した動画や「いかのおすし」と呼ばれる不審者への対応方法を学びました。



【「いかのおすし」の説明をする署員の方】



【真剣なまなざしで聞いている児童】

《2020 スポーツフェスティバル(体育等授業参観) 順調に進んでいます》

新型コロナウイルスの影響により2学期の運動会が中止となりました。しかし、何とか子供たちの心に残る学校行事を行いたいと、2020 スポーツフェスティバル（体育等授業参観）を計画しています。3密を避けつつ体育の内容を盛り込み、学校の行事として実現させるために、教職員が知恵を出し合い、準備を進めています。



【休み時間に並び方を確認しています】



【スタムマラソンに参加する3年生の練習風景】

《税金について学習しました》

11月11日（水）に租税教室が開催されました。そこでは6年生が税金について学習しました。講師の方が分かりやすく教えてください、税金が身近な生活の中で生かされていることを学びました。



【税のに関する写真を使い具体的な説明】



【講師の話を真剣に聞く児童】